



初等教育教員養成課程  
英語コミュニケーションコース2年

**佐藤 誠さん**

仙台育英学園高等学校卒業



中等教育教員養成課程  
美術教育専攻2年

**笹木 花梨さん**

宮城県宮城第一高等学校卒業



教育実習  
体験の声

初等教育教員養成課程  
国語コース4年

**中嶋 真吾さん**

岩手県立大船渡高等学校卒業

## 多様な機会を通して

私は将来先生になりたいと思い、宮城教育大学を志望しました。実際にオープンキャンパスに参加し大学の雰囲気を感じるとともに模擬授業を受講したことで、入学への意思が一層強くなりました。

私が入学した英語コミュニケーションコースでは、英語教育を専門として小学校教員になるための勉強をしています。2020年からは小学校における英語教育が大きく変化するため、英語教育が注目されています。それに備えて、学生が英語の模擬授業を考えて実践し、先生や他の学生から直接意見を聞く機会があるほか、小学校での英語教育に関する定期的な勉強会などもあり、貴重な機会となっています。

また長期休暇の際には、公立学校で学習支援のボランティアに参加しました。早い段階で実際の教育現場に立つことができ、そこでは授業で学んできたことを活用するだけでなく、教える立場になったからこそ分かることが多くありました。

限られた時間の中、宮城教育大学で多様な機会を通して、教育に関する様々な知識を学び、経験を積むことで将来に活かしていきたいと思います。

## 自分らしく生活できる環境

宮城教育大学は緑豊かなキャンパスです。四季折々に変化する景色は、どんな時期でも綺麗で、いつも私を前向きな気持ちにさせてくれます。大学の授業は高校の時とは違い、選択肢が多いため、比較的好きなことを学べます。その分、全てにおいて自己責任となりますが、その自由好きな学びができるからこそ宮城教育大学の魅力だと思います。

私は幼少期に海外に住んでいたこともあり、国際交流に関心があります。中国や台湾などの留学生と交流を持ち、異文化への驚きや発見の多い毎日を送っています。

また、1年生の春休みには、台湾で7日間の短期留学を経験しました。台湾で見学したお寺の装飾は、日本とは全く違ったスタイルのもので、日本のお寺とは異なる魅力や美しさがあります。美術専攻の私にとって、こうした台湾の美的感覚はとても刺激的なものでした。留学で掴んだことはとても多く、私の大きな財産となりました。

最後に、これからも好きなことを全力で学び、吸収し、有意義で実りある大学生活を送りたいと思います。

## 3年次教育実習を終えて学んだこと、4年次実習へ向けて

8月末から附属小学校で小学校3年次実習を行いました。9月の台風の時期だった為、学修内容以上に、子供たちの安全に留意した2週間だったと記憶しています。

附属小学校での一挙手一投足、全てが今に繋がる学びです。特に、先生方からの助言には、実習生各々が重みを感じていることと思います。私が実習当時、図画工作科の先生からいただいた言葉は、「大人の当たり前と子供の当たり前は全く違う」でした。理屈では分かっている、いざ子供たちの前に立つと、ハサミの安全な切り方を教え損なってしまうようなこともありました。

およそ起こりうる（起こしうる）失敗を、完全に網羅して授業へのぞむことは難しいかもしれません。しかしそれでも、子供たちにとって良い授業を、また、子供たちの心身の安全を探究する姿勢そのものに尊さがあります。

附属小学校の先生方には、伝えようにも伝え切れない感謝の思いがあります。優しい笑顔の子供たちもよく覚えています。今ある思いを心の糧として、4年次実習に励んでいます。



中等教育教員養成課程  
数学教育専攻3年

**桐澤 悠生さん**

秋田県立本荘高等学校卒業

## 将来に生きる経験

私は高校1年生のときから宮教大を志望していました。志望した理由は、高校の恩師の影響でした。この先生は20代で年齢に近いこともあり、生徒の信頼が厚く、授業が分かりやすいことでも評判でした。また部活動でも3年間お世話になり、私は人として大きく成長できました。その先生が宮教大出身ということもあり、迷わずに志望し続けてきました。

大学に進学してからは、単に「頭の良い先生」だったり「生徒に好かれる先生」でなく、幅広い知識や豊かな人間性の双方を兼ね備えた教員を目指そうと思っています。高校時代は部活としてサッカーにだけ打ち込んで来ましたが、大学では現在3、4のサークルに入り、様々な経験をしています。そこでは今まで知らなかったことや、新たな出会いなどかけがえのないものを得ています。授業やアルバイトとの両立などは難しいこともありますが、必ず将来生きる経験だと思い、頑張っています。

大学生活は夢を現実にするための4年間だと思います。多くのことが自己責任だったり、不安も絶えませんが、いろんなことを経験して自分の目指す教員に近づきたいと思います。



特別支援教育教員養成課程  
聴覚・言語障害コース3年

**鈴木 葵さん**

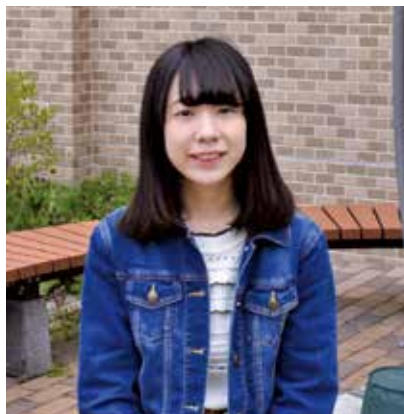
福島県立福島高等学校卒業

## 自分らしく

私には聴覚障害があります。障害をもっと理解してくれる先生がいたらいいなという思いから、自分が教師になって障害のある子どもたちの理解者になっていきたいと感じ、宮教大に入学しました。宮教大の特別支援教育は、まず5領域(視覚障害、聴覚・言語障害、知的障害、肢体不自由、病弱)全てを学ぶことができるところが魅力的です。様々な障害について学ぶことで、自分の視野がどんどん広がっていくし、「障害」についての見方そのものも色んな刺激の中で変わっていきます。

また、宮教大には私以外にも障害学生や障害のある教授がいて、対話を通じ、自分の気持ちを共有してもらえらる一方で、自分にはない視点を得ることもできます。授業以外でも、私は現在、聴覚障害の子どもたちに勉強を教えるサークルや、ダウン症の方と一緒にダンスをするサークルに所属しており、実際に障害のある子どもたちと交流して、一緒に考えたりする中で、逆に彼らから学ぶことも多く、講義だけでは得ることのできない貴重な経験をしています。

障害があっても、「自分らしく」自分のやりたいことに挑戦しながら、充実した毎日を送っています。障害があってもなくても同じように自分らしさを持ちながら、子どもたちが学校生活を送れるように指導できる教師を目指して、これからも宮教大で成長していきたいと思っています。



介護等  
体験の声

初等教育教員養成課程  
教育学コース4年

**坪井 理生さん**

尚綱学院高等学校卒業

## 人と関わることの喜び

3年次に、様々なハンディキャップを抱えている方々の自立を支援する事業所で介護等体験を行いました。そこでは、利用者の方々と一緒にクッキーを作ったり、野菜の栽培や収穫のお手伝いをしたりといった仕事を体験できました。私は、この介護等体験に取り組むまで、障害を持った方々と接することはほとんどありませんでした。そのため、事業所に行く前はとても不安でしたが、実際に行ってみると利用者の方々が仕事を熱心に教えてくださったり、お昼の時間にも色々なお話をしてくださったりと優しく接していただき、楽しくコミュニケーションを取ることができました。そして最終日に「また来てね」と言っていたときにはとても感激しました。人と関わることの喜び、幸せを改めて感じた5日間でした。

介護等体験は、講義の中だけでは学ぶことができないことを、実感を持って学ぶことができる貴重な機会です。これから介護等体験に臨む皆さんも自分なりの目標を持って取り組み、充実した体験にしてほしいと思います。